

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代に活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追究した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

ここでは、宮崎県を代表する作家の作品を紹介するとともに、「県西部の画家たち」をテーマとしたコーナー展示も行います。

本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩月 桃甫	1886～1954	リンゴ	1949(昭和24)	23.5×33.4	油彩
2	塩月 桃甫	1886～1954	裸婦	1948(昭和23)	22.7×16.0	油彩
3	塩月 桃甫	1886～1954	少女像	1953(昭和28)	41.0×32.1	油彩
4	山田 新一	1899～1991	フランソワーズ	1983(昭和58)	91.0×65.3	油彩
5	山内 多門	1878～1932	鷹図	1921(大正10)	131.5×18.3	水墨
6	山内 多門	1878～1932	山水図	不明	112.2×41.8	水墨
7	益田 玉城	1881～1955	艶美	1928(昭和3)	115.2×41.3	日本画
8	野口 徳次	1908～1999	抱く	1965(昭和40)	162.0×130.6	油彩
9	原田 茂	1936～2009	私の周辺 III	1978(昭和53)	130.4×162.2	油彩
10	前田 舜敏	1932～	VILLA	1972(昭和47)	130.0×130.4	油彩
11	前田 利昌	1943～	長椅子の女	1983(昭和58)	91.3×116.8	油彩
12	野田 典男	1928～	運河のある街	1993(平成5)頃	72.7×91.0	油彩
13	杉下 昭明	1927～1994	モノクロの山	1993(平成5)	112.1×162.1	油彩